

高等学校公民科「倫理」「公共」に関する教員の指導力向上

I 団体の概要

当研究会は、東京都の高等学校公民科の教員を中心に、その他の教科や校種の教員、大学生、大学院生、他県の教員等にも開かれた、自主的に集い主体的に研究を行う団体である。毎年6月中下旬に総会を行い前年度の報告や本年度の計画、予算、事務員等の人事等について参加者から承認を得ている。なお、事務局担当者を随時募集している。

II 研究の目的

当研究会は、「倫理」や「公共」などの学習内容の研究と指導方法、授業方法、評価方法の研究、それに参加者同士での課題や研究成果の共有、次代の教員への技能継承等を主な目的としている。

III 研究の方法

1 研究例会（年3回1、2、3学期に開催）

公開授業、研究発表とその協議、講演等を企画・実施し、指導内容の知見を広げ、授業技術向上に活かす。教科書、資料集の比較検討、哲学対話の研修、観点別評価の実践研究など、より多くの参加者を見込んだ研究例会を開催する。

2 研究協議会（今年度は年3回 夏季、秋季及び冬季に開催）

原典訳書、哲学・倫理分野を主とする入門書・研究書の輪読を通じて指導内容に関する知見を深める。

3 出版物発行及び改訂に向けての「公共」「倫理」の研究

『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』の改訂版の発行及び改訂に向けて研究する。

4 事務局と連携した研究部体制の再構築

研究例会や研究協議会の開催にあたっては、事務局との連携を図りつつ、研究部内で担当と副担当をそれぞれ充て、協力体制をつくり、研究活動を持続発展させていく。

5 全国組織、他教育研究団体、各大学等との交流

今後の研究活動の充実を図り、研究団体としての社会への発信力を高めるためにも、会員相互の情報共有を進め、関連教育研究団体・学会・大学等との意思疎通を密にして交流を深める。

6 研究紀要の発行

1年間の研究活動とその成果、課題等をまとめ、発表する。

IV 研究の内容

1 研究例会

現実を認識・構築する際に「知識」の在庫に頼ることとは知識社会学の定説だが、日本の場合、その知識のほとんどが翻訳語でできている。教育を語り、教育について理解・認識することばもほとんどが翻訳語か音をまねたカタカナ語（loanwords）である。この要旨で使われる言葉も例外ではない。

アクティブ・ラーニングとは何か。

「主体的・対話的な、深い学び」とは何か。「個別最適化された学び」や「個別最適な学び」とは何か。カリキュラム・マネジメントとは何か？私たちが教育を語ることばのほとんどが翻訳語であるという視点に立ち、そこから日本の教育や教育改革の議論、そこに埋め込まれた思考の習性（クセ）について検討した。



2 夏季研究協議会

各校で実践している心理学分野の授業について具体的な内容を紹介する。生徒の興味・関心を引き出し、科目「倫理」の魅力さをさらに高める心理学の学びとは何か。参加者とも議論しながら、心理学分野の授業をどう工夫するか、実践のアイデアや方法を考えた。



3 冬季研究協議会（予定）

マンガを通じた哲学について、理論と実践の両面から紹介する。まず、マンガのどのような特徴が私たちに哲学的な思考を促すのかということの説明する。次に、実際のマンガ作品を取り上げながら、具体的な問いの立て方や読み解き方を示す。最後に、マンガを通じた哲学と高等学校公民科『公共』『倫理』を接続する道筋について考察する。

<令和7年度連絡先>

団体名		東京都高等学校「倫理」「公共」研究会	
代表者	所属	東京都立上野高等学校	
	職 氏名	統括校長 渡邊 範道	
	連絡先	03-3611-2125	
事務局	所属	東京都立杉並高等学校	
	職 氏名	主任教諭 伊藤 昌彦	
	連絡先	03-3391-6530	
団体ホームページ	URL	https://torinken.hatenablog.com/	二次元コード
			